

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：宗田 市太郎 幹事：平尾 信明

情報委員長：清水 忠

1977・3月3日

第85号



“現代男性おしゃれ考”

金沢女子短大教授

矢部 まさみ 先生

ふりかえって歴史をひもといてみますと、古くは、男性の方が女性よりは遙かにおしゃれであった時代があります。

ところが、恐らく儒教の影響でしょう。明治以後の日本では、それを男らしくない軟弱なものとして排除するような風潮が拡がり、女性のおしゃれとの間に、30年程のハンディがついてしまったのは残念なことです。

私は、男性にとっておしゃれというものは、おしゃれというよりは身だしなみとして欠く事のできないものだと思います。

例えば、今回の石原新環境庁長官の“ネクタイ無用論争”にしても、成程ネクタイは、実用性から云えば意味のない一見不用の物です。しかし、世の中には、意味なくして存在価値を持つ物が、他にも沢山ある筈です。

もし女性が、背広ネクタイ姿の男性の、多忙な職場で仕事に真拳に打ち込む姿に、凜々しさや頼もしさを感じるとすれば、ネクタイは背広の好ましいパートナーとして、其れなりの意義があるのではないのでしょうか。

富士山には月見草が良く似合うという言葉がありますが、和服における帯と同じように、背広にはネクタイが良く似合うものとして、其れはコスチュームデザイン100年の歴史の積み重ねの中で定着した美の定型だと思います。

敢えてネクタイに限りません。服飾美学には最高というものはありません。

その場、その時、その機会にふさわしい事、云ってみれば個性と周囲との調和が保たれる事がおしゃれのポイントと云うことになりましょう。

中国に、“最も美しい70台”という言葉があります。ロータリーの皆様も、美しい中年、美しい老年と云われるように、お金もうけだけでなくおしゃれにも心を配っていただきたいものですね。

—金沢北RC例会卓話から— (文責 清水 忠)

ロータリー創立記念日に当って

—— 反省、そして原点を見つめよう ——

修練委員会 柴田 三郎

最初のロータリークラブは、1905年（明治38年）2月23日シカゴにおいて、弁護士ポール・ハリスなど4人の人達によって誕生した。それから満72年、今や全世界151ヵ国、17,000を超えるクラブ数、80万人になんなんとする会員を擁するまでに至った。

さて、この偉大なる発展、持続の秘密は何であろうか。……創立当初は、会員間の職業上の相互扶助と友好親善の二つを目的としたようである。私は想う、これだけであったらロータリーは今日の拡大、持続は見なかったであろう。ところが、最初から、会員は1業1人を原則としたこと。政治上、宗教上の論争を禁止したこと。会務は互譲の精神で輪番制を採ったこと。出席をクラブ活動の根本義務としたことなど永続の一因として無視することは出来ない。が、これだけではない。もっと大きな根本的なものがあることを確認しようと、私は多くのロータリー文献を追いつつ探求した。

その第一は、最初のシカゴクラブが創立した翌年の1906年1月、会員の中から、クラブの目的として、相互扶助と親睦だけでは満足出来ない。と、追加されたのが「シカゴ市の最善の利益を振興し、会員間に市民としての誇りと忠誠の精神を鼓舞すること」であった。けだし、追加されたこの一項が、やがて全米に広がる大きな原動力となったであろうことは想像に難くない。……素晴らしき英知であった。

これだけではない更に4年後の1910年8月には、5ヶ条からなるロータリー最初の綱領を決定した。その第4条に「進歩的で、尊敬すべき商取引の方法を推進すること」とある。正にロータリーの根幹となる職業を通じて社会に奉仕する理念のスタートである。これが、次第に全世界の良識をゆさぶり起こす支柱となったのであろうし、ロータリー大躍進への前提となったことは固く推察されて止まない。

第三には、1915年において、11ヶ条からなるロータリーの倫理訓が決議された。その全条いずれも、ロータリー今日の発展を約束する……いわゆるクリーンなる大指標である。全文をここに掲げることがを省略して、特に私の感銘深き二つをご紹介します。

第2条……わが身を修め、わが能率を向上し、わが奉仕を拡大すべきこと。そうすることによって、最も良く奉仕するもの、最も多く報いられる。というロータリーの基本原則に対して忠実なることを立証すべきこと。

第3条……われらは実業人であり、成功の野心を抱いていることを認める。同時に、道徳を重んずる人間であり、最高の正義と道義に基づかざる成功は、これを欲するものではないことを自覚すべきこと。

私は更に想う。ここにおいて、ロータリーの永遠なる生命、崇高なるロータリー精神の基礎が確立したのである。5年刻みの大躍動である。私が、ロータリーの一節(ふし)は5年と提唱する所以の一つである。5周年、10周年等々の祝典は日本のロータリーによく見るところであり、それは結構である。が、仮りに5年間を啼かず飛ばず無為に過ごして、ドンチャン騒ぎ、若しくはスタンドプレー的な形だけの事業で、お茶をにごすような事でもいいのだろうか。と思うことがある。

創立記念日の趣旨は、原点に返えることであり、初心忘るべからずの教訓を思い起こすことであり、先達の偉業に学ぶことであろうかと考える。ロータリー創立、クラブ創立、わが事業の創立、わが職業のスタートの当時を思い顧みて、覚悟を新らたにする意義は大きい。記念すべき日は忘れてはなるまい。

金沢北ロータリークラブ職場対抗卓球大会

“圧倒するファイトと若さ”

2月20日9時から、石川米油3Fホールで、会員職場10チームが参加して行われ、越野病院チームが初優勝した。

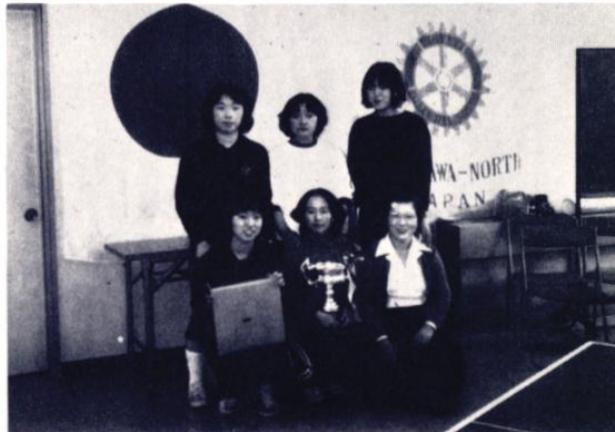
試合は男子2人女子3人一組のチームによるトーナメントで、会員や会員夫人も出場する和気あいあいたるムードの中で若さとファイトをぶっつけ合う大熱戦を、5時間にわたり繰り広げたが、女性ファイブの越野病院が、平均20才のヤングの強みと熱狂的応援団の糸乱れぬコンビで他チームをノックアウトした。

出場選手の皆さん、職業奉仕委員の皆さんご苦労さま。そして会場提供の山上会員、優勝杯等寄附の宗田会長、岡田副会長ありがとうございました。

楽しい一日でした。



熱気あふれる会場



優勝の越野病院チーム

熱戦の記録

